

2月24日(月)

命がけで走れ！

聖書朗読 I ペテロ 5:5～11

身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜しもとめながら、歩き回っています。

I ペテロ 5:8

その日の気象は気温が高く乾燥しており、花壇から古い花株を取り除いてペテュニアの花を植えるのに向いているようでした。古くなって枯れている根を持ち上げたとき、事件が起きました。蜂の群れです。「蜂だ！ 裏庭のドアまで走れ」と私が叫ぶと、皆走り出しました。それから病院で手当てを受け、大事なく済みました。私は助けられたのです。その蜂の名はギアナ・スズメバチでした。

人生に何かが起こるときには、肉体的にも精神的にもそれに圧倒されてしまうことがあります。私は庭仕事の際、もっと注意すべきでした。精神的な事ならにおいては、私たちには第二のチャンスがあることがあれば、ないこともあります。ですから、私たちは第二のチャンスを当てにすることはできません。身を慎み、目をさましていなさいという上記の聖書朗読は、それが書かれた日だけでなく、今日についても本当のことを言っていると言えます。

イエス・キリストの福音にしたがって、聖霊に近づきましょう。そうすれば嵐の中でも私たちは導かれるでしょう。『あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。』(I ペテロ 5:6～7)。

讃美歌 375

祈り 親愛なる神様。天国を、そして救われるということに感謝します。私たちにはあなたが今も必要です。私たちを祝福し、死ぬときには天国へ入れてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョージ・F・ドーティー
テキサス州 テイラー

今日の力

2014年2月24日～3月2日

翻訳 海澤弘美

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月25日(火)

新しい命への約束

聖書朗読 黙示 21:1~7

朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてください。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。

Iペテロ 1:4

あなたは、人生に何か新しい出来事が起こるのを楽しみますか？ 多くの人が、新車の独特な匂い、新生児の柔らかく繊細な肌、春の新緑を好ましく思います。新しい人生は約束と希望をもたらします。

しかし、この地上のものはすべて、時とともにその新しさを失ってしまいます。数年たてば新車のにおいは、古くなったフレンチフライか、汗臭いサッカーのユニフォームのような臭いになってしまいます。赤ん坊は大きくなり、すべすべでしみのない肌は、にきびやしわによって失われてしまいます。木々の葉は茶色くなって地面に落ち、吹き飛ばされてしまいます。すべてのものは終末をむかえ、命は失われてしまいます。

しかし、クリスチャンにとっては、終末は終わりではありません。神様は新しい天国と新しい地上を、誠実な信仰を保っている者たちへ約束なさっています。古い秩序にあるものは過ぎ去り、そして、神様はすべてを新しくされるでしょう。神様によるこの新しい命の最大の違いはそれが永遠に新しいままであり続けるということです。決して朽ちることも汚れることも、消えていくこともない資産なのです。痛みも死もないので、泣くことも嘆くこともありません。悲しい終末はなく、永遠の始まりだけがあるのです。

讃美歌 第二編 43

祈り 親愛なる神様。私たちが年をとって弱々しく、最後までやり遂げることができないと感じる日々には、新しい命へのあなたの約束を私たちに思い出させてください。そして、新しいエルサレムの夜明けの光を見るまで、私たちが夜の闇の中、希望を持ち続けることができるようにしてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ヤン・ノックス

テキサス州 グランベリー

2月26日(水)

なぐさめの言葉を失う

聖書朗読 ヨブ 42:1~9

私の霊は乱れ、

ヨブ 17:1

私たちは、皆、ヨブの友人たちに似ています。いつでもちょうど良く、なぐさめの言葉が言えるわけではありません。ある日、私は悲しみに泣いている一人の女性の傍らを歩いていました。彼女の悲しみの理由を知っていましたし、私の「お気の毒に」という言葉が何の役にも立たないということも分かっていました。

私たちはなぐさめるための、完璧な言葉をかけたいと思います。しかし、ヨブの友人たちができなかったように、それはできません。ヨブの友人たちは、病んでいるヨブにその原因について回答を与えようとしています。その苦しみはヨブの罪によってであり、ヨブはそれを認めるべきであると主張します。友人たちは、ヨブの苦しみに理性的な説明を与えなければならないと思ったのでしょう。ヨブの妻は、苦痛の中にいるヨブに、怒りと死に降参するようにすすめます。

しかし、ヨブはこれらの見舞いに來た友人たちより賢かったのです。ヨブは神様にたずねました。神様はヨブに「あなたがそれを知ることはできない」と答え、さらにこう指摘されました。「なぜなら私は神であり、あなたは神ではない」。ヨブはそれにただこう答えました。「私は知らなかった」。

神様の目的は、悲嘆の最中には隠れているようにみえるかもしれません。しかし私たちはキリストを通して、神様がなさる神秘的なみわざについて知っています。古い福音の歌に「父なる主にあつてのみ、私たちはすべてのことを知ることができよう」とありますが、私たちはおそらく、このみことばによって神秘的な神のみわざを再確認し、このみことばによって他人にもそれを再確認させることができるのです。ヨブにとっては、それを知るだけで十分だったのです。

讃美歌 316

祈り 親愛なる主よ。私たちが嘆き悲しむにつれ、そしてその嘆きが慰められるにつれ、あなたの導きなく私たちが進むべき道を知ることができないと認識します。あなたが答えてくださるまで、私たちは「なぜ」という質問をするのを待ちます。

イエス様の御名において。アーメン。

スティーブン・S・レムリイ
共同編集者

2月27日(木)

生　　き　　る　　か　　死　　ぬ　　か

聖書朗読 エステル 4：9～17

また、主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と慣用を尽くし、コロサイ 1：10～11

もしあなたの命がもうすぐ終わると知ったら、あなたは何をすることを選びますか？ 王妃エステルは自分が死ぬかもしれないと認識しました——卑しいユダヤの女として死ぬか、反逆した王妃として死ぬか。エステルはこの現実を受け入れると、勇気を持って彼女の民族を救おうと決心しました。彼女の第一歩は三日間断食することでした。それは時間を無駄にしているように見えますが、しかし彼女は謙虚に十分な準備をしたのです。エステルは戦略を練りました。衣装、話の内容、願い事のタイミング、晚餐のメニュー、告訴のしかた。そして最後にエステルは行動を開始し、王の部屋の中へと歩いていきました。人差し指を立てることもなく短剣をおびることもなく、晚餐への招待状を携えて。

王はエステルの命を救い、晚餐へやってきました。エステルはハマンも晚餐に招待していました。王とハマンが彼女の傍らで食べたり飲んだりしているとき、エステルはハマンの悪事を明かしました。王は怒り、ハマンを処刑しました。

王妃エステルは死にませんでした。彼女は生きて、数百万人のユダヤの兄弟姉妹を救うためにもうひとつの提案をしました。神様がエステルを置いた場所ゆえに、彼女は勇敢に大胆になりました。道を切り開いて、彼女の民族を助けたのです。

讃美歌 267

祈　り　主よ。あなたが私たちに与えてくださった場所に、今日、感謝します。あなたがなさりたいことなら何でも、大胆に一步を踏み出すことができるような信仰を、私たちが生きるこの場において与えてください。

イエス様の御名において。アーメン。

エミリー・Y・レムリイ
共同編集者

2月28日(金)

足　　こ　　と　　を　　知　　ら　　ず

聖書朗読 創世記 3：1～8

死のように、足ることを知らない。

ハバクク書 2：5

エデンの園には多くの木がありました。神様が男と女をエデンの園に住ませたとき、そこには二人が必要とする食料や美しいものすべてがありました。なぜなら、神様が『見るからに好ましく食べるのに良いすべての木』（創世記2：9）で、エデンの園を満たしたからです。二人にとっては何もかもが十分でした。

しかし、男と女はもっと欲しがりました。木々のなかでも特に知識の木は『食べるのに良く、目に慕わしい』（創世記3：6）ものでした。知識の木には、その実を食べるものを賢くするという誘惑がありました。その木は二人に、十分にあるだけでは満足できない十分以上の何かを与えるものだったのです。

「十分に持っていて、もっと欲しい」という欲求は、おそらく人間の究極的な本質かもしれません。十分に持っていて十分ではなく感じ、そうなる欲望は必要を超えてさらに大きくなります。私たちは十分満ち足りるまで行動する、というのは大きな嘘です。本当に真実なのは、私たちは神様の中においてのみ「十分」を見つけることができるということです。

讃美歌 448

祈　り　親愛なる神様、すべてものの創造主よ。今日私たちが何に直面しようとも、どのように満ち足りることができるかを教えてください。あなたに思いを馳せる度に、私たちは満ち足りていると認識することができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ティム・ウィリス
カリフォルニア州　マリブ

3月1日（土）

恐 れ る な

聖書朗読 出エジプト記 14：5～14

恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。
出エジプト記 14：13

「恐れてはいけない」という言葉は、聖書の中で神様が最も多く繰り返している言葉の一つです。出エジプト記の14章では、イスラエルの民が、後ろを紅海に前をファラオの軍勢に挟まれてしまいます。イスラエルの民は「大いなる恐怖」から主に叫びます。モーセは民に『恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。』と言って落ち着かせます。神の民は、いつも恐れによって苦しんできました。アダムが罪を犯した後で言った最初の言葉は、『恐れて、隠れました。』（創世記3：10）でした。

「恐れ」は、しっかり考える力を歪めます。恐れは私たちを利己的にし、他人のことを考えなくします。恐れるということによって、私たちは人間性を失うのです。私たちは、老いへの恐れ、死への恐れといった個人的な恐怖に苦しみます。しかしながら、究極の恐れとは、人生を無駄に過ごしてしまうという恐怖のことです。クリスチャンは「神を恐れることによって、他のすべての恐怖に打ち克つことができる」ということを心に留めることによって、人生を無駄に過ごすという恐怖に対抗することができます。神様を恐れるということは、神様を人生の中心に置くということを意味します。そうすれば私たちは恐れを制御して、神様の目的に満ちた人生を送ることができるのです。

讃美歌 285

祈 り 私たちの天国のお父様、恐怖で麻痺してしまうことから私たちを自由にしてください。そして人生の不確かさに直面するときに、自信を与えてくださることに感謝します。人生の目的と意味を、イエス・キリストを通して与えてくださって感謝します。

イエス様の御名を通して祈ります。アーメン。

デイブ・ブランド
テネシー州 メンフィス

3月2日（日）

神様に不安を受け取ってもらう

聖書朗読 申命記 31：1～8

主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。
申命記 31：8

毎週、大きなトラックが私の近所にガラガラ音を立ててやってきます。このトラックはゴミ回収車で、私たちの世帯になくってはならないものです。7日間の間にたった家庭内のゴミを持っていってくれます。ゴミをきれいにしなかったら、私たちの家はすぐに住むことができなくなってしまうでしょう。毎週月曜日の朝には回収車がくるので、必ずゴミを出します。そうすれば、もうゴミのことは考えなくても大丈夫です。

同様に、もし私の心を煩わす事を神様に受け取ってもらったら、もう思い煩うことはなくなるのでしょうか？『あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。』（1ペテロ 5：7）という忠告の言葉を思い出してください。「ゆだねる」という言葉は、とても強い言葉で、もともとは、ギリシャ語の「投げ捨てる」という言葉を訳したものです。私は、物質的なゴミは確実に捨てるようにしていますが、さて、心の平穏を乱す不安や心配事を神様に向かって放り投げていますかどうか？

神様は、私たちが神の平安の中に暮らせるように、私たちの重荷を取り除いてあげたいと思っておられます。神様は、私たちの重荷がどんなに重くても担いでくださいます。

讃美歌 515

祈 り 天国のお父様。私の精神を弱らせるような不安な考えをあなたに預けます。私の不安や恐れをやさしく取り除いてくださることに感謝します。あなただけが与えることのできる平安を、私にください。

イエス様の御名において。アーメン。

ロバート・P・リー
コロラド州 オーロラ